

中学 2 年 国語科 教材別テスト⑤ 「短歌に親しむ／短歌を味わう」

教材別リメイク版 中学 2 年 国語 / 「短歌に親しむ」「短歌を味わう」(光村図書『国語 2』) / 漢字・語句・短歌の形式と修辞

2 年 組 番 氏名 _____

【注意事項】

- 問題は「一」から「四」(P. 1～P. 4)までです。
- 大問四は、教科書『国語 2』(光村図書)の「短歌に親しむ」「短歌を味わう」のページを開いて解答しなさい。
- 大問四は、教科書に収められている短歌の中から自分で一首を選んで答える問題です。どの一首を選んででもかまいません。
- 解答は、解答用紙の適切な欄に、ていねいに楷書で書きましょう。
- 句読点などの符号も一字と数えます。

知識・技能 (50点)

次の——線部について、漢字はその読みをひらがなに直し、ひらがなは漢字に直して書きなさい。ただし、送りがなが必要な場合(⑤⑩⑮⑲⑳)は、必ず送りがなまで書くこと。

1点×20=20点

- | | |
|---------------------|----------------------|
| ① 俳句を <u>詠</u> む。 | ② <u>叙景</u> の歌。 |
| ③ 言葉の <u>韻</u> 律。 | ④ <u>旋律</u> が美しい。 |
| ⑤ 心が <u>震</u> える。 | ⑥ <u>繊細</u> な感覚。 |
| ⑦ <u>郷愁</u> にひたる。 | ⑧ <u>哀愁</u> をおびる。 |
| ⑨ 言葉を <u>吟</u> 味する。 | ⑩ <u>鮮やかな</u> 色。 |
| ⑪ <u>きせつ</u> がめぐる。 | ⑫ <u>げんかん</u> に立つ。 |
| ⑬ <u>えいえん</u> をいのる。 | ⑭ <u>しょうちょう</u> する色。 |
| ⑮ 布を <u>そ</u> める。 | ⑯ <u>すなはま</u> を歩く。 |
| ⑰ <u>なみだ</u> があふれる。 | ⑱ <u>こきょう</u> に帰る。 |
| ⑲ 星が <u>か</u> がやく。 | ⑳ <u>おさない</u> ころの記憶。 |

二

次の問いに答えなさい。

2点×7=14点

(1) 「叙景」の意味としてあてはまるものを、次から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 自分の気持ちをそのまま打ち明けること。 イ 風景のありさまを文章や歌に表すこと。
ウ 出来事を順序どおりに語ること。 エ 物の名前を数え上げること。

(2) 「余韻」の意味としてあてはまるものを、次から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 読み終わったあとまで残る、味わいや響き。 イ 書き残された部分。
ウ 声の大きさ。 エ 意味のわからない言葉。

(3) 「郷愁」の意味としてあてはまるものを、次から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 知らない土地にあこがれる気持ち。 イ ふるさとをなつかしく思う気持ち。
ウ 人をうらやむ気持ち。 エ 旅に出たくなる気持ち。

(4) 「胸を打つ」の意味としてあてはまるものを、次から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 強く心を動かされること。 イ 息が苦しくなること。
ウ 決意を固めること。 エ 腹を立てること。

(5) 「震」の部首名を、ひらがなで書きなさい。

(6) 「繊細」の対義語としてあてはまるものを、次から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 粗雑 イ 微細 ウ 精密 エ 丁寧

(7) 「読書」と熟語の組み立てが同じものを、次から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 山頂 イ 詠歌 ウ 高低 エ 岩石

次の(1)～(8)の説明にあてはまる言葉を、後の語群から一つずつ選んで書きなさい。語群の言葉は一度ずつしか使えず、使わない言葉もあります。

2点×8＝16点

- (1) 短歌は、五・七・五・七・七の（ ）から成る。（ ）に入る、一首全体の音数。
- (2) 短歌の前半、「五・七・五」の三句をまとめた呼び方。
- (3) 短歌の後半、「七・七」の二句をまとめた呼び方。
- (4) 短歌の第三句のこと。一首のまん中にあたるため、体の部分の名でもこう呼ばれる。
- (5) 和歌で、特定の語の前に置いて調子を整える、五音の決まった言葉。「あをによし（奈良）」などがその例。
- (6) ふつうの語順を入れかえて、感動や強調を表す表現技法。
- (7) 文や句の終わりを、名詞で止める表現技法。
- (8) 「ようだ」「ごとし」などの言葉を使わずに、あるものを別のものだと言い切ったとえる表現技法。

〔語群〕 三十一音 / 三十二音 / 上の句 / 下の句 / 初句 / 結句 / 腰句切れ / 字余り / 字足らず / 体言止め / 倒置法 / 直喩 / 隠喩 / 擬人法 / 反復 / 対句 / 枕詞

思考・判断・表現 (50点)

教科書『国語2』（光村図書）の「短歌に親しむ」「短歌を味わう」のページを開き、そ

四 こに収められている短歌の中から心にひかれた一首を自分で選んで、後の問いに答えな
さい。

50点

(1) あなたが選んだ短歌について、作者名と、初句（第一句）のはじめの二字だけを書きなさい。

*著作権のため、歌の全文は書かなくてよい。はじめの二字だけで、どの歌かがわかるようにしなさい。
4点

(2) 選んだ短歌の音数を、初句から結句まで順に数えて「五・七・五・七・七」のように漢数字で書き
なさい。また、字余り・字足らずがあるかどうかを答え、ある場合は何句目かも書きなさい。
4点

(3) 選んだ短歌の句切れは、どこにあるか。「初句切れ」「二句切れ」「三句切れ」「四句切れ」「句切れ
なし」のいずれかで答え、そう判断した理由も書きなさい。
6点

(4) 選んだ短歌に用いられている表現技法を一つ挙げ、それによってどのような効果が生まれているか
を説明しなさい。
8点

(5) 選んだ短歌にえがかれている情景（いつ・どこで・何が見えるか）を、二十五字以上四十字以内で
説明しなさい。
8点

(6) その短歌にこめられた作者の心情（主題）を、二十五字以上四十字以内で書きなさい。
10点

(7) あなたがこの一首を選んだ理由と、読んで感じたこと・考えたことを、六十字以上八十字以内で書
きなさい。歌の中の言葉（短い語句でよい）を手がかりにして書くこと。
10点

※ 短歌の全文を書き写す必要はありません。(4)(7)で歌の言葉にふれるときは、十字程度までの短い語句を「 」に入
れて示しなさい。

解答用紙① 知識・技能

中学 2 年 国語科 教材別テスト⑤「短歌に親しむ／短歌を味わう」

2 年	組	番	氏名	_____
-----	---	---	----	-------

知識・技能 小計

一 漢字 (1 点×20)	①		②	
	③		④	
	⑤		⑥	
	⑦		⑧	
	⑨		⑩	
	⑪		⑫	
	⑬		⑭	
	⑮		⑯	
	⑰		⑱	
	⑲		⑳	

二 語句の知識 (2 点×7)	(1)		(2)	
	(3)		(4)	
	(5)		(6)	
	(7)			

三 短歌の形式 と 修辞の用語 (2 点×8)	(1)		(2)	
	(3)		(4)	
	(5)		(6)	
	(7)		(8)	

※ 一の⑤⑩⑮⑲⑳は、送りがなまで書くこと。三は語群の言葉をそのまま正しく書き写すこと。

解答用紙② 思考・判断・表現

中学 2 年 国語科 教材別テスト⑤「短歌に親しむ／短歌を味わう」

2 年 組 番 氏名 _____

思考・判断・表現
小計

合計（100点満点）

四(1) 選んだ 短歌 (4点)	作者名	
	初句の はじめの二字	
四(2) 音数と 字余り・字足ら ず (4点)	音数	
	字余り・ 字足らず	
四(3) 句切れ (6点)	句切れ	
	理由	
四(4) 表現技 法と その効果 (8点)	技法名	
	効果	

解答用紙②（つづき） 思考・判断・表現

中学 2 年 国語科 教材別テスト⑤「短歌に親しむ／短歌を味わう」

2 年 組 番 氏名 _____

四(5) 情景
(25～40字・8
点)

四(6) 作者の
心情・主題
(25～40字・10
点)

四(7) 選んだ
理由と感想
(60～80字・10
点)

※ 記述問題は、解答欄におさまるように、ていねいな字で書きなさい。句読点も一字と数えます。(5)(6)は25～40字、(7)は60～80字です。短歌の全文は書き写さず、ふれるときは十字程度までの短い語句を「 」で示しなさい。

